

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

〇概況

- ◆ 金融政策の据え置きを決定
- ◆ ラガルド総裁の会見では、PEPPの買入ペース減額は議論されていないとし、前回同様ハト派色を前面に押し出す内容となった
- ◆ 欧州の景気回復などを背景に6月ECB会合に向けて資産買入ペースの減額の思惑が高まる可能性に注意

✓ 4月22日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、**中銀預金金利は▲0.50%、主要リファイナンス金利は0.00%、中銀貸出金利は0.25%**で据え置いた。また、**パンデミック緊急資産購入プログラム（PEPP）やTLTRO-Ⅲ（条件付き長期リファイナンスオペ）の規模及び期間を維持**した。

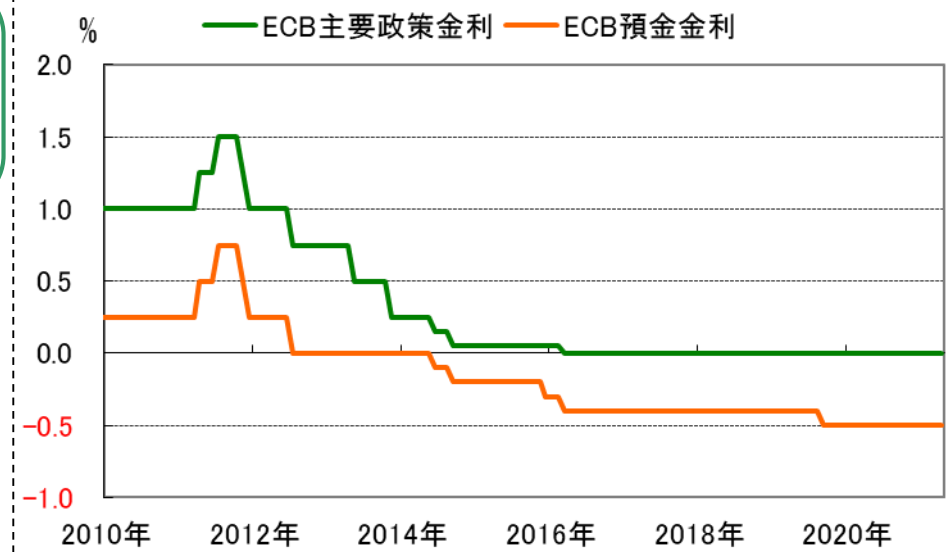
✓ またフォワードガイダンス（将来の金融政策方針）については、「**インフレ目標の実現がしっかりと見通せるまで現状ないし現状を下回るレベルで政策金利を維持する**」と据え置き。

✓ **ラガルド総裁は理事会後の会見では、PEPPについての質問が目立ったが、一部マーケットで注目されていたPEPPの買入ペースの減額（テーパリング）については、今回の会合では議論されていないとした。**また、3月の声明文でも記載された21年第2四半期に向けてPEPPの買入ペースを非常に大きく加速するとの方針について、週次のデータで判断することは好ましくなく、月次のデータを参考にすべきと主張。足元の週次の買入ペースが明確には増加していないことに対してけん制した。

✓ 先日行われたカナダ中銀の会合で資産買入の縮小が決定されたことと関連し、FRBやECBでも資産買入の縮小が行われる可能性についての質問に対し、**欧州と米国の経済環境には差（米国に比べ回復が遅れる）があり、FRBの政策に対してECBが足並みをそろえる必要はない**とした。

✓ 今回の会合は前回同様ハト派色を前面に押し出しており、目新しい材料はなかった。欧州各国の国債の利回りは、緩和継続が主張されたため一時小幅に低下したが、全体として影響は軽微であった。**6月ECB会合は景気見通しの改定もあり、資産買入ペースの減額の思惑が浮上しやすいであろう。**

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（3月時点）】

	2021年	2022年	2023年
実質GDP成長率	+4.0	+4.1	+2.1
12月時点の見通し	+3.9	+4.2	+2.1
HICP(消費者物価)	+1.5	+1.2	+1.4
12月時点の見通し	+1.0	+1.1	+1.4

前年比、%
【出所】ECB, Bloomberg

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。